

BRM1105 鬼怒川 600(2023)

写真 : <https://photos.app.goo.gl/cLrkP6JTLfqPizLx7>

---

来年の PBP 出場資格の一つである 600km ブルベ。いち早く認定を済ませてしまえば楽になるはず。アキレス腱の故障あがりでもあり、コースも比較的マイルドで親しみあるルートということもあって認定試走させていただきました。

準備 :

当日は二日間とも晴れ予報。日曜は夜までに帰宅したかったので、西那須野のホテルを早朝出発予定で組んでみた。上三依からの下りが朝方で一番冷える時間帯になるので、夏ウェアと冬ウェアを両方持参。それでも走行の負担にならないように、装備を色々工夫。ウールのソックスとインナーは、暑いときも乾きやすくまた汗かいた後も臭くなりにくい。荷物かさばらないよう、シューズカバーは大小トゥカバー二枚重ね+カイロで防御。薄手のビブタイツに、裏起毛薄目の冬ジャージ。コンパクトなウインブレ。日中指切りグローブ、夜は真冬用のゴアグローブ。結果、-1℃~23℃を割と快適に走行できました。

スタート~コントロール 1 (青梅 08:45) :

スタート地点まで着てた冬ジャージから夏ジャージに衣替えしてスタート。たまがわ定番コースは、都心部を抜けるブルベとしては例外的に信号が少なく走りやすい。ただし、7 時スタートなので新奥多摩街道などは少し車があり要注意。このコース、50-80km にコントロールが設定されていて、バランスよく補給食をあまり持つ必要がない。あっという間にコントロール 1 に到着。50-80km 間隔だと、1000-1500kcal 必要（自分の場合）。今回のコントロール補給はあらかじめ買うものを決めていた。おにぎり x 1、パン x 1、ブラックサンダーまたは羊羹 x 2。これにビタミンドリンクや牛乳など。買うもの決めていれば、短時間で買い物済ませてすぐリスタートできる。パンがかさばる場合は、少しコントロールで食べて残りはバックポケットに入れてリスタート。羊羹類は、反射ベストポケットも活用。

コントロール 1～コントロール 2（小鹿野 10:53）：

山伏峠のヘアピンだけインナーつかって無理なく。郊外に出るにつれて車少なくなり走りやすい。秩父手前は少し渋滞していた。

コントロール 2～コントロール 3（なんもく）：

続く志賀坂峠、湯ノ沢 TN とともに、「序盤の緩斜面アプローチまでで概ねかたがついてる」登坂。気持ち的に楽。淡々と登坂こなすと本日の主な登りは終了。これから平地地獄。ある程度峠があったほうが、自分は飽きずに精神的には楽に走れる。時間はかかりますが。コント

ロール 3 の道の駅なんもくでお昼のカレーは大変おいしかったです。ただし、食堂営業時間は 14:30 まで。

コントロール 3～コントロール 4（みどり大間々 15:46）：

しっかり腹ごしらえして元気を出して、市街地を通過。市街地といっても、ほぼ一本道なので考えることが少なくとても走りやすい。このコース設計思想は自分は好み。ただし、市街地走行が嫌いな方は意見がわかるかも。この区間と足利までは多くの食堂などがあるので補給は困らないでしょう。

コントロール 4～コントロール 5（宇都宮 19:00）：

足利を過ぎるとめっきり心細い道に。途中で日没。鹿沼市街まで街灯もない区間が多く、この区間は単独ではなくグループがおすすめ。会沢 TN では下りで鹿と並走。ここ鹿が多いのと、おそらく夜間になると思いますので、速度は十分に落として走行してください。暗く寂しい道を抜けると鹿沼市街地。このあたりで食事とも思っていたのだが、お店が全然開いていない。仕方なくそのままコントロールへ。

コントロール 5～コントロール 6（西那須野）：

どこかで食事をとコントロールではドリンク1本だけ。これが間違い。冷えてきたのでラーメンを  
と思っていたのだが、鹿沼から先も開いているラーメン屋がなく、結局西那須野のすぐ手前ま  
できてようやく1軒発見。しっかり暖まって残り10km 本日のお宿の西那須野へ。

コントロール6～コントロール7（上三依）：

4:30に起床するつもりが、3:30に起きてしまう。準備して4amでリスタート。5h程度ベッド  
でぐっすり熟睡できたので眠気は最後までなし。がま石TNの出口の交差点は、無理に横断  
して旧道に渡らず、左折して潜竜峡TNへ。TN内は明るく走りやすかったです。登坂もピー  
ク近くで夜明けを迎え、素晴らしい紅葉が飛び込んできた。ただし、上三依到着時は気温  
0度。駅舎をお借りして、手持ちのすべての防寒具をセットしてリスタート。

コントロール7～コントロール8（日光）：

途中紅葉絶景の間を縫うようにDH。写真を撮りたかったが、マイナス1度を記録しており、  
グローブ外すのが億劫で心に焼き付けておいた。今市市内に降りて陽がのぼってくると、今度  
は暑すぎるのでピットインして補給しながら夏装備にチェンジ。まだ10度位だが、日光の登  
坂があるのでちょうどよい。

コントロール8～コントロール9（みどり大間々 11:14）：

日足 TN までのアプローチも、序盤の緩斜面でほぼあらかた終わっている感じ。DH 途中で、45 分の業務テレカンもはさみつつ。コントロール 9 へ下り基調。とはいっても微妙な上り返しがいくつもあり、単調な下りで身体がかたまることなく程よく身体がほぐせるので、気持ちよく昨日も立ち寄ったコントロールへ。

コントロール 9～コントロール 10（青梅 15:03）：

この区間はほとんど上りなしの市街地メイン。しかし、非常にルートが単純でわかりやすいので気持ちは楽。途中定食屋でランチをいただき、ひたすら南下。昨日は北風で向かい風メインだったのだが、今日は弱い南風。二日とも向かい風基調。こういうときは虚無に淡々とクランクを回す仕事をこなすのみ。ほどなく埼玉県に入り、たまがわ定番の県道 30 へ。

コントロール 10～ゴール（狛江 16:35）：

羽村からの復路は往路と異なり、新奥多摩街道。なだらなか下りが続き非常に走りやすい。自転車レーンも用意されている。快適に下って、往路と同じルートでゴールへ。ぎりぎり日没前にゴール。人馬共に全く損傷なく、帰宅。気温差が非常に大きいブルベだったが、装備もばっちりあたり、最高に気持ちよく走れた 2 日間でした。

Hide